



# 但馬国府・国分寺館ニュース

編集・発行

2010.12 第22号

但馬国府・国分寺館  
Museum of Tajima Kokufu and Kokubunji

〒669 5305 兵庫県豊岡市日高町林布 808  
TEL 0796-42-6111 FAX 0796-42-6112  
<http://www.city.toyooka.lg.jp/kokubunjikan/>



縄文土器 熊ノ林貝塚／青森県八戸市



第22回  
企画展

## ある考古学少年の夢

—故金津匡伸氏収集資料から縄文時代を考える—

今から約40年前、考古学に関心を持ち、故郷の宮城県石巻市で毎朝近くにあった縄文時代の貝塚に通い、石器や土器を拾っていた少年がいました。

彼は大学で建築歴史を学びながら発掘調査に参加し、考古学の基礎を学びました。卒業後、夢だった博物館勤務は叶わず民間会社に就職します。転機は1991年に外務省に入省し、在モンゴル日本大使館に勤務したことでした。当時のモンゴル国は社会変化に伴い、民族資料が遺棄されていました。彼は、貴重なモンゴル民族の資料を後世に残したいとの思いから自費で5000点を超える資料を収集したのです。

考古学少年だった彼の名前は、<sup>かなつまさのぶ</sup>金津匡伸さん。1995年に但東町（現豊岡市）から声がかかり、青森県から家族で移り住み、後に豊岡市立日本・モンゴル民族博物館長に就任しました。

金津さんは2009年に51歳という若さで逝去されましたが、彼の遺してくれたものは有形のものだけでなく、子どもの時の夢を持ち続け、実現させる努力をすることの大切さなど、無形のものも多くありました。

今回の企画展は、日本・モンゴル民族博物館と協力して2会場で展示を行い、金津さんが伝えたかったことを改めて見つめ直したいと思います。当館では、少年時代に採集した資料を基に、縄文時代の人々の生活や自然環境を考え、豊岡市の縄文時代と比較することにしました。そこには生物多様性や環境問題など、私たちが取り組んでいる課題へのヒントがあるように思います。

この企画展を機に、縄文人の知恵や生活に思いを馳せていただければ幸いです。



## 金津匡伸さん略年譜

1958年 宮城県石巻市で生まれる。  
 1972年 この頃から貝塚通いを始める。  
 1978年 八戸工業大学建築工学科入学。  
 1982年 大学卒業。アマチュア考古学者として調査研究することを決意。  
 1991年 外務省入省。在モンゴル日本大使館勤務。社会・生活の変化で民族資料が急速に破損・遺棄されることに危機感をもち、資料収集を始める。

1994年 外務省を退職。モンゴル民族資料や考古資料など約1万点を但東町（現豊岡市）に寄贈。  
 1995年 但東町教育委員会に赴任。博物館建設・文化財・国際交流を担当。  
 1996年 日本・モンゴル民族博物館竣工。  
 2001年 館長に就任。  
 2008年 モンゴル国政府より友好勲章を受章する。  
 2009年 体調不良により入院、51歳で逝去。



金津匡伸さん  
 (2000年撮影)

## 縄文人の豊かな食生活

宮城県石巻市には、南境<sup>みなみさかい</sup>貝塚や沼津貝塚などの縄文時代の貝塚があります。貝塚からは、カサゴ・カツオ・スズキのほか、体長2m近いマグロの骨をはじめ、大量のハマグリやアサリ・カキ・アカニシ・サザエ・バイなど、おなじみの貝類も出土しています。さらに、現在は有害鳥獣とされるニホンジカ・イノシシなどの獣骨もあり、数千年前から自然と共存しながら豊かな食生活を送っていたことがわかります。

また肉を取った後のシカの角などは、首飾りや、魚を捕るためのヤスや釣針の材料としても使われていて、最後まで余すところなく利用していたことがわかります。



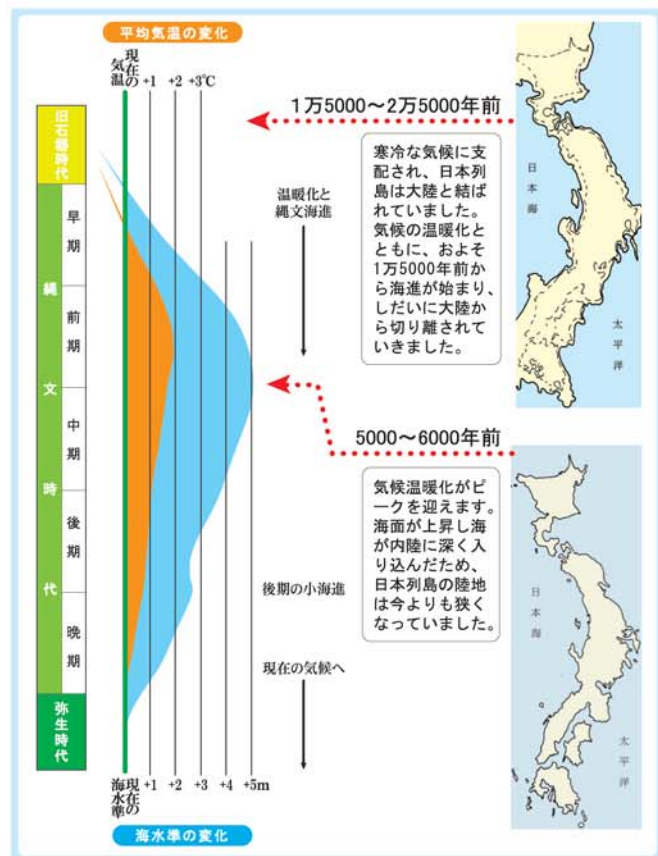
南境貝塚出土の魚介類 縄文時代/宮城県石巻市  
 上段は魚類：マダイ・カツオ・スズキ・マグロ  
 貝類：アカニシ・アサリ・イボニシ・カキ・サザエ・バイ・ハマグリほか

## 縄文時代の自然環境

今から約2万年前の旧石器時代は、氷河期の影響を受け海面が下がり、日本列島は大陸とつながっていました。旧石器時代から縄文時代に変わる約1万年前から気温が上昇し、約6000年前の縄文時代前期にピークを迎えます。その頃の海面は、現在よりも5m程度高くなり、この現象を縄文海進とよんでいます。その後、気温は下降し、弥生時代にはほぼ現在の海岸線になります。

南境貝塚や沼津貝塚で出土している貝類を見ると、縄文時代の中・後期には海水性のものであったのが、晩期になると汽水性のヤマトシジミが主体になっていて、縄文時代の海面の変化を読みとることができます。

さらに、縄文時代の貝塚が、今の海岸線よりも内陸部に分布していることから、縄文時代の海面は今よりも高かったことがわかります。



## ● 花開いた土器文化

今から約1万年前、日本で土器が焼かれるようになります。土器の表面には、縄の文様が付いているものが多いことから「縄文土器」とよばれています。

縄文土器の名称は、1877年にアメリカ人の動物学者、エドワード・S・モースが大森貝塚(東京都品川区・太田区)で発掘した土器を「Cord Marked Pottery (紐の痕がついた土器)」と報告したことから名付けられました。

縄文土器は、時代や地域によって形や文様が大きく異なりますが、独創性と美しさにおいて世界に類を見ません。特に縄文時代晩期に東北地方で作られた土器は精緻で、まさに土器文化が花開いた時代といえます。

## ● 縄文人の調理法

縄文時代の遺跡からは、石鏃がたくさん見つかり、弓を使って狩をしていたことが分かります。弓の普及により、動きの速い獣や鳥など多くの食材を手に入れることが可能になりました。大きな肉を持ち帰るときは石匙とよばれる石器類が使われ、魚の鱗を取るのに、ハマグリなどの殻の厚い貝殻の縁部を打ち欠いて作った貝刃も使われています。

縄文人は、こうした道具で季節ごとの豊かな食材を手に入れ、いろいろな方法で調理をしていました。

土器を作ることで煮炊きすることが可能となり、トチやドングリ類のアク抜きや、貝類なども煮炊きすることで食べやすくなりました。縄文時代に、煮炊きに適した深鉢形土器が多く作られるのはこうした理由によると考えられています。また、貝塚からは海水を煮詰めて塩を作るための製塩土器も見つかっていますので、味付けに塩を使っていたことも分かります。

自然と共存するための縄文人の知恵を感じます。

## ● 縄文人の祈り

縄文人の平均寿命は25歳前後と考えられています。縄文時代の生活は、狩猟や漁労など何をするにしても少人数では行えないものでした。村を維持し共同で生活できる人口を保つために、多くの子どもを生む必要があったと考えられています。

縄文時代には、土偶という人の形をした土製品が作られます。土偶には、女性を表現したものが多いことから、人口の維持を図りたいという縄文人の切実な願いが込められていたのかも知れません。



石鏃  
南境貝塚



貝塚出土の獣骨

左列：シカ 右列：上からアナグマ・タヌキ・イノシシ (3点)  
南境貝塚・沼津貝塚/宮城県石巻市



女性を表現した土偶  
梅ノ木畑遺跡/福島県田村郡



イノシシの下顎骨で作った首飾り  
南境貝塚

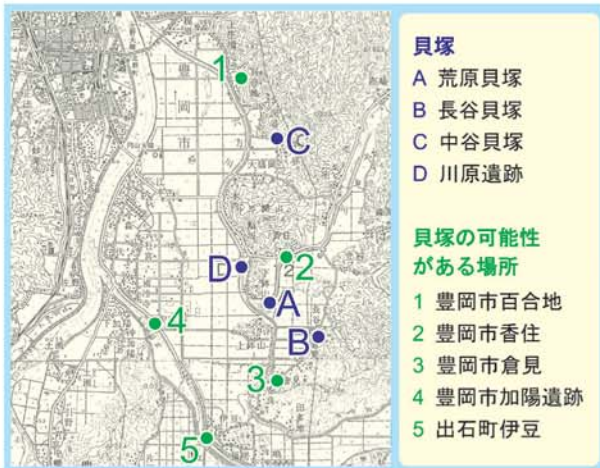


## 豊岡市内の縄文貝塚

豊岡市内では、縄文時代の貝塚が3箇所と弥生時代の貝塚が1箇所見つかっています。

そのなかの香住荒原貝塚は、豊岡市香住の通称「ブリ山」の北側にできた谷地形に位置しています。1999年の発掘調査では、貝殻の堆積層が幅約10m、厚さは最大で1m70cmにわたって確認されました。貝殻層は大きく自然貝層（下層）と貝塚層（上層）に分かれています。

貝塚層からは、縄文時代の中期から晩期にかけての土器が出土しています。貝類ではマガキやヤマトシジミ、ウネナシトマヤ、イシマキガイの出土量が多く、汽水域であったことが想像できます。香住荒原貝塚がある場所は、現在は水田地帯となっていますが、約3～4000年前は湾のような形状をなしており、縄文人たちの生活を支えるのに重要な漁場であったと考えられます。



豊岡盆地の貝塚とその可能性のある場所



香住荒原貝塚の調査風景



香住荒原貝塚出土の貝類

アサリ・オオノガイ・ハマグリ・カキ・サルボウ・ヤマトシジミほか（順不同）

### Topics 縄文時代とはどんな時代か

縄文時代は、今から約1万数千年前から約2500年前までの時代で、旧石器時代との違いは、土器や弓矢の出現などがあげられます。また、関東以北では貝塚の形成が顕著になります。

後続する弥生時代との違いは、定型的な水田耕作や金属器の出現などがあげられますが、地域差が大きく議論がなされています。

## お知らせ

### ■ 日本・モンゴル民族博物館 第53回企画展

#### ある考古学少年の夢 II

会場：日本・モンゴル民族博物館

会期：平成23年2月10日（木）～4月5日（火）

考古学少年だった故金津匡伸前館長の、モンゴルでの民族資料収集にかけた思いや、豊岡市での文化財調査の成果を展示します。

\* 日本・モンゴル民族博物館ホームページ  
<http://www3.city.toyooka.lg.jp/monpaku/>

\* 但馬国府・国分寺館ホームページ  
<http://www.city.toyooka.lg.jp/kokubunjikan/>

## 但馬国府・国分寺館 ご利用案内



■開館時間 午前9時～午後5時  
 （入館は午後4時30分まで）

■休館日 水曜日（祝日の場合は開館し翌日を休館とします）  
 12月28日～1月4日

■入館料 大人 500(400)円  
 高校生 200(150)円  
 小中学生 150(100)円

\*（ ）は20名様以上  
 \*県内小中学生は無料  
 \*65歳以上の方は半額



ホームページ QRコード

TOYOOKA  
 コラボトリ発案と育るふるでこ